火遣ナル場合ナラサルヘカラス

防火戸ハ右防火壁ノ通路ニ用フルモノニシテ釘ヲ外面ニ露示スルコト無ク作リタル鐵張戸ヲ二重ニ用ヒ之ヲ開ク場合ニハ「レール」ニ依リ戸ヲ釣リ上ケ錘ヲ附シ置キ火災ノ場合ニハ火熱ニ因ル溫度ノ上騰ニ依リ溶解スル一種ノ金屬ノ溶解ニ依リテ自働的ニ其錘ヲ切斷シテ閉鎖スルモノトス英國「マザー ブラット」會社製及ヒ「ニユートンチエンムバース」會社製防火鐵張戸(Armoured fire-proof door)ノ如キハ蓋シ理想的ノモノナラン

防火道路ハ都市ノ大火災ヲ防止スル爲メニ計畫布設セラルルモノニシテ都市ニ於ケル建物ノ高サニ比例シテ其ノ道路ヲ廣ク設計セサルヘカラス專門家ノ說ニ依レハ道路ノ幅員ハ之ニ面セル建物ノ高サト同一以上ナラサルヘカラスト言ヘリ

河川溝渠モ亦防火ノ目的ニ利用セラルルコト勿論ナレトモ素人考ニテハ前記防火道路ト同一ノ幅員ヲ有スルトキハ其目的ヲ達スルヲ得ヘキカ如ク思惟セラルルモ實際ニ於テハ道路ヨリモ更ニ廣キ幅員ヲ要スル由ナリ是レ河

川ニ在リテハ火掛ニ便ナラスシテ喞筒ノ如キモ喞筒臺ヲ用ヒサレハ用ヲ爲サス又建物ノ構造ハ通常道路ニ面スル側ヨリモ複雜ニシテ火粉火焰ノ侵入ヲ容易ナラシムル場合多キニ原因スルモノトス

第四　消火設備ハ所謂狹義ノ消防裝置及ヒ組織ニシテ火災損害ノ減少ニ關シテ最有力ニシテ必要ナル施設ナリ之ヲ分チテ左ノ六種トスルヲ得ヘシ

一、スプリンクラー(Sprinkler)

二、ハイドラント(Hydrant)及ヒ水道消火栓

三、ドレンチヤー(Drencher)

四、可搬蒸氣及瓦斯倫ポンプ

五、輕便消火器、バケツ、手押ポンプ及ヒ濡筵

六、消防署及ヒ消防隊

今其各個ニ付キテ少シク說明スル所アラントス

一、スプリンクラー

「スプリンクラー」ハ室內消火設備トシテ最進步シタルモノナリ我國ニテハ普

通家屋ニハ未タ之ヲ設備シタルモノ稀ナリト雖トモ歐米ニテハ一般ニ盛行セリ「スプリンクラー」ノ「ヘッド」(頭)ノ形狀ハ各式ニ依リテ異ナリト雖トモ其吐水口カ室内溫度ノ昇騰ニ依リ一種ノ金屬(Fusible metal)カ溶解シテ壓力アル水ヲ噴出セシムルハ同一ナリ其溫度ハ各室ノ常溫ノ如何ニヨリテ多少ノ差違アリト雖トモ普通華氏百五十五度乃至二百五十度ナリ其高キモノハ汽罐室乾燥室等ニ用ヒラルルモノトス本邦ニ於テ多ク行ハルル式ハ「グリンネル」(Grinnell)「タイタン」(Titan)「ニユートン」(Newton)等ナリ「グリンネル」ハ「センター」型ノ代表者ニシテ「ニユートン」ハ「カンチレヴアー」型ノ代表者ナリトス這ハ溶金屬カ「ヘッド」ノ中央ニ存在スルカ又ハ腕木ニ依リテ止メラルルカニ依リテ分ルル名稱ナリ「スプリンクラー」ニハ又水管式ト乾管式トアリ水管式ハ其本管ヨリ分配管ニ水ヲ充シ之ニ壓力ヲ加フル式ニシテ普通ノ方法ナリ乾管式ハ氷結ヲ防ク爲メニ水ノ代リニ壓搾空氣ヲ充タシ「アラームヴァルヴ」ノ下ニ水ヲ貯ヘ置キ火災ニ際シテハ先ツ空氣ヲ噴出セシメ續テ水ヲ送ルノ式ナリ其效力ハ水管式ヲ以テ優レリトセラル

「スプリンクラー」ノ管ハ鐵製ニシテ其本管ハ六吋分配管ハ最端四分ノ三吋ニ及フモノトス而シテ四分ノ三吋ハ頭一個ヲ支持スルニ適シ六吋ハ頭數二百以上ヲ支持スルコトヲ得ルモノトス最近ノ說ニ依レハ末端ト雖トモ一吋ヲ適當トスルトノコトニシテ之ニ從テ一吋ノモノヲ製造スル者アリ而シテ本管及ヒ分配管カ頭ヲ支持シ得ヘキ數ハ卽チ左ノ如シ

管徑	頭數
$\frac{3}{4}$吋	1
1	3
$1\frac{3}{4}$	5
$1\frac{1}{2}$	9
2	18
$2\frac{1}{2}$	28
3	46
$3\frac{1}{2}$	78
4	115
$4\frac{1}{2}$	125
5	150
6	150–200

但管端ノ閉塞セル場合ニハ一直線ニ六頭以上ヲ竝列セシムヘカラス幹管ノ上昇セントスル處ニハ「スプリンクラー」ニ取リテ最重要ナル「ヴァルヴ」類(Valve)ノ集合ヲ見ル卽チ開口ニ際シテ警報器ヲ鳴ラス所ノ「アラーム、ヴァルヴ」又其全部ヲ支配スル「メインストップ、ヴァルヴ」及ヒ「テスト、コック」「エスケープ、ヴァルヴ」「アラーム、コック」竝ニ水壓計カ一ハ「アラーム、ヴァルヴ」ノ上部ニ一ハ其下部ニ附屬シ尙

各水源ヨリ來ル幹管ニハ「バック、プレシュア、ヴァルヴ」ヲ有ス

警報器ハ普通水壓ノ變動ニ因リ水力ヲ以テ警報スルモノト電氣ヲ以テスルモノトアリ

水源ハ「スプリンクラー」ニ限ラス凡テノ消火設備ニ必要ナルモノナリ殊ニ「スプリンクラー」ニ於テハ少クトモ二箇ノ水源ヲ有セサルヘカラス而シテ其一箇ハ使用上制限ナキコトヲ必要トス普通水源トシテ用ヒラルルモノ左ノ如シ

一、ポンプ

二、水道

三、高架水槽

四、壓力水槽

五、ハイドリック、インゼクター (Hydric injecter)

本邦ニ於テ多ク用ヒラルルモノハ第一水源トシテハ自働式「アンダー、ライター」、ポンプ」ニシテ第二水源トシテハ水道、高架水槽、壓力水槽ヲ用ヒ「ハイドリック、インゼクター」ヲ用フルモノ無キカ如シ次ニ「ポンプ」及ヒ水槽ニ付キ少シク說明セン

(イ)「アンダーライター」四回動自働蒸氣ポンプ

(ロ)回轉式ポンプ　普通電動機ニ連結シテ回轉セラルル「タービンポンプ」「セントリフューガル、ポンプ」「ローターリー、ギヤーポンプ」等ノコトナリ

(ハ)「アンダーライター」四回動ポンプ　之ハ他ノ動力ヲ傳動裝置例ヘハ調皮等ニ依リテ傳動シテ運轉セラルルモノナリ

以上三種中比較的堅牢ニシテ取扱輕便且實用ニ適スルモノハ(イ)ニシテ我國ニ於テ最多ク行ハルル式ナリ而シテ英國「マザーブラット」會社製ヲ以テ其優トセリ同會社製ニハ左ノ四種類アリ

一號型(12×6×12)　二號型(14×7×12)　三號型(16×8×12)　四號型(18×10×12)

一號型ハ一分間揚水量二百四十六乃至三百七十「ガロン」二號型ハ同三百三十四乃至五百「ガロン」三號型ハ同四百三十六乃至六百五十四「ガロン」四號型ハ同六百八十二乃至千二十四「ガロン」トス而シテ「スプリンクラー」用トシテハ約六

百五十「ガロン」「ハイドラント」用トシテハ約二百五十「ガロン」ヲ必要トスルカ故ニ此兩者ニ共通使用ノ場合ハ四號型ヲ用フルヲ便利ナリトス、

第二水源タル水槽中高架水槽ハ普通鐵製ニシテ之ニ木又ハ亞鉛板ノ屋蓋ヲ有シ屋上若クハ別ニ築キタル塔上ニ安置スルモノトス其高サハ「スプリンクラー」頭ノ最高ノモノト水槽ノ底部トカ少クトモ十五呎ノ落差ヲ有スルヲ必要トス

給水ハ普通二吋半若クハ三吋管ヲ以テ之ヲ爲シ自働ポンプ若クハ水道ニ連結シ「ポールタップ」ニ依ル自働給水裝置ヲ付ス給水裝置ニ故障ヲ生シ水槽内ノ水量減少スル場合ハ指水計ニ依リ之ヲ知ルコトヲ得ルノ裝置アリ「スプリンクラー」ト連結セラルル下降管ハ六吋ニシテ之ト同徑ノ「ストップヴァルヴ」及ヒ「バックプレシュアヴァルヴ」ヲ付ス而シテ「ストップヴァルヴ」ハ平常全開トス

容量ハ一危險内ノ頭數百五十マテハ五千「ガロン」二百マテハ六千五百「ガロン」二百以上ハ七千五百「ガロン」トス從テ此量ハ必ラス常ニ保留シ置カサルヘカラス故ニ「スプリンクラー」ト「ハイドラント」ニ兼用スル水槽ニテハ下降管ノ取付方ニ注意ヲ要ス卽チ「ハイドラント」用下降管ノ排水口ニハ三四尺其底部ヨリ突出シテ取付クルヲ普通トス

壓力水槽ハ場所ノ關係上水槽ヲ高處ニ置クコト能ハサル場合ニ多ク用ヒラルルモノニシテ鐵製圓筒形ナリ其設置場所ハ可能的高處トシ其室ハ管理者カ何時ニテモ容易ニ達シ得ルヲ要ス而シテ之カ工場内ニ置カルル場合モ「スプリンクラー」ニ依リテ充分ニ保護セラレサルヘカラス

壓力水槽ノ内容ハ壓搾空氣ト水ヨリ成リ水ノ最低容積ハ三千三百三十三「ガロン」ヲ下ルヲ得ス卽チ該水槽ノ全容積五千「ガロン」ナラハ三分ノ二六千六百六十六「ガロン」ナラハ二分ノ一又一萬「ガロン」ナラハ三分ノ一ハ水ヲ充タスモノトス而シテ空氣ノ壓力ニ關スル規則ハ「スプリンクラー」ノ頭ト同水平ニ在リト假定シテ其壓力ヲ定メアリ卽チ容積五千「ガロン」ナラハ氣壓七十五「ポンド」ニシテ一呎ヲ下ル毎ニ一「ポンド」二分ノ一ノ壓力ヲ加フ六千六百六十六「ガロン」ナラハ氣壓四十五「ポンド」ニシテ一呎ヲ下ル毎ニ一「ポンド」ヲ加フ若シ一萬「ガロン」ナラハ氣壓三十「ポンド」ニシテ一呎ヲ下ル毎ニ四分ノ三「ポンド」ヲ加

フルモノトス然ルニ實際壓力水槽ハ高處ニ上セ難キ狀況ノ場合ニ用ヒラルルモノナルカ故ニ普通ハ「ポンプ」室若クハ流罐室ノ横側等ニ置カルルモノナレハ其最高「スプリンクラー」頭トノ差ハ四十呎以上時トシテ六十呎ニ及フモノアリ若シ一萬「ガロン」ノ水槽ニシテ高差六十呎トスレハ $60 \times \frac{3}{4} + 30 = 75$ 卽チ七十五「ポンド」ハ其所要ノ壓力ナリトス

壓搾空氣ヲ作ルニハ別ニ空氣「ポンプ」ヲ附屬セシメ「ゲージ」ニヨリ常ニ水槽内ノ氣壓ヲ監視シ若シ所定ノ壓力ヨリ減退スル場合ニハ之ヲ補充セサルヘカラス送水管及ヒ「スプリンラー」連結管ノ存在スルコトハ高架水槽ト同シク又之ニ「バックブレシュアヴァルウ」及ヒ「ストップヴァルヴ」ヲ有シ之カ「スプリンクラー」ト平素連結セラルル場合ニハ「ストップヴァルヴ」ハ全開セラレアルモノトス然レトモ「ポンプ」ノ高速運轉試驗ノ時ハ「ストップヴァルヴ」ヲ閉鎖スルヲ安全トス

水道ハ何人モ知ル如ク其壓力ハ自然流下ト「ポンプ」壓力トアリト雖トモ其壓力ハ一定セサルカ故ニ「ハイドリックインゼクター」ノ如ク更ニ機械力ヲ加ヘタルモノノ外ハ水源トシテハ不正確ナリ但平素「スプリンクラー」ト連結セサル

豫備水源トシテハ支障ナシトス

二、「ハイドラント」及ヒ水道消火栓

廣義ノ「ハイドラント」ハ消火栓ノ總稱ナレトモ我邦ニ於テ「ハイドラント」ト言ヘハ工場用消火栓ヲ意味シ水道ノ「ハイドラント」ハ單ニ消火栓ト謂フカ如シ工場用「ハイドラント」ハ水槽ヲ用フルモノアリ或ハ水道ヲ用フルモノアリト雖トモ非常ニ際シテハ必ラス消火ポンプト直結セラルルコトヲ要件トス「ホース」ハ水壓ト場所トニ依リテ異ナルト雖トモ普通二吋又ハ二吋半ヲ適當ナリトス「ハイドラント」ハ何時ニテモポンプニ連結セラレ其場合ニハ「バックブレシュアヴァルヴ」ニ依リテ自働的ニ活動スルヲ要ス工場ノ内部ニモ「ハイドラント」ヲ設クルノ必要アリ

市街ニ於ケル水道消火栓ハ落差アル所ハ自然流下ニ依リ落差少キ所ハポンプ壓力ヲ加フルモノトス然レトモ市街ニ於ケル雜水飲料ニ使用スルコトヲ許ストキハ壓力ニ變化甚シクシテ實際ニ用ヲ爲サス東京市其他ノ大都市ニ於ケル消火栓ハ特ニ其感多シ斯ル場合ハ可搬蒸汽ポンプ又ハ瓦斯倫ポンプ

ノ水源トシテ使用スルニ止マルモノトス東京市ニ於ケル水道ノ幹管ノ最大ナルモノハ四十四吋ニシテ淨水所ヨリ四本ヲ配布シ最小ハ三吋ニ至ルモノアリ而シテ消火栓ノ數ハ公設四千八百七十一箇所私設千七百七箇所之ニ使用スル水管自働車二十五臺(私設ハ別ニ「ホース」ヲ備フ)ヲ有ス

三、「ドレンチャー」

「ドレンチャー」ハ類燒ノ虞アル方面ノ窓外若クハ混打綿室若クハ「ヒールド」乾燥室等ニ之ヲ設備スルモノナリ一名水幕(Water Curtain)ト稱シ其吐水口ハ平素開口シタル儘並列シ其幹管ノ「ストップヴァルヴ」ヲ開ケハ水ハ瀧ノ如ク落下シ窓側ナトハ水幕ヲ作リ類燒ヲ防クモノナリ

四、可搬蒸汽ポンプ及ヒ瓦斯倫ポンプ

都市消防ニハ消防隊及ヒ可搬消防機關ヲ要ス「ハイドラント」ノ項ニ述ヘタル如ク全市各所ニ水道消火栓ノ配置アリト雖トモ壓力足ラサルヲ普通トスルカ故ニ此消火栓ハ通常可搬蒸汽ポンプ及ヒ瓦斯倫ポンプノ水源ヲ爲スニ止ルコト多シ手押ポンプアリト雖トモ之ハ輕便消火器ト同樣ニ取扱フモノニシテ都市ノ消防ニハ不適當ナリ

蒸汽ポンプハ蒸汽ヲ動力トスル所ノ「ピストンポンプ」ニシテ便利且堅牢ナリト雖トモ蒸汽ヲ起スニ時間ヲ要スルノ缺點アリ瓦斯倫ポンプハ自働車及ヒ飛行機ニ用フル石油機關ヲ利用ス始動速ニシテ輕便ナリ唯其吸水ニ不便アリシヲ以テ發達ノ初頭ニ在リテハ「ピストンポンプ」ヲ作リタリト雖トモ元來此機關ハ回轉ノ速ナル點ニ特長ヲ有スルモノナルカ故ニ此速度ヲ利用シ回轉式ト爲スニ至レリ回轉式ハ前記ノ如ク吸水ニ困難ナリシカ近年之ニ眞空ポンプヲ附屬セシメタル結果此點ヲ除去シ得タリ種類ハ「タービンポンプ」及ヒ「ロータリーポンプ」最多ク行ハル

東京市ニ於テハ一昨年ヨリ全部此瓦斯倫ポンプヲ採用シ現ニ「シーグレーブ」會社製及ヒ「ラフランス」會社製七十五馬力以下二十五臺ヲ有シ其威力ヲ發揮シツツアリ尙近近「コンビネーション、エンジン」ヲモ採用スヘシト云ヘリ箇ハ普通ポンプノ外化學的ニ消火スル藥液タンクヲ具備スルポンプニシテ「ラフランス」製ノモノ優良ナリト聞ケリ

可搬ポンプハ都市ノ外工場用トシテモ亦有效ナリ此ポンプハ何レモ一分間二百五十ガロン以上ノ吸水力アルコトヲ必要トスルモノトス

五、輕便消火器　バケツ、手押ポンプ及ヒ濡莚

輕便消火器ハ普通炭酸瓦斯ヲ發散シテ消火スルモノニシテ火災ノ最初ニ使用スヘキモノトスバケツ亦同樣ニシテ別ニ說明ヲ要セス唯バケツハ工場等ニ在リテハ之ヲ赤色ニ塗リ人目ニ觸レ易ク作リ水ヲ充シ置クコトヲ要ス手押ポンプモ亦火災ノ當初ニノミ有效ナルモノトス濡莚ハ紡績製紙等ノ工場ニ於テ發火ノ初頭ニ用フルモノニシテ平素莚ニ水ニ浸シ備ヘ置クニアリ這ハ火災ニ當リ綿バルブ等カ「スプリンクラー」「ハイドラント」等ニ依リテ注カレタル水上ニ浮ヒツツ尙燃ヘタルノ實例ニ鑑ミ之ヲ掩覆シテ消火スルノ目的ナリ鐘ケ淵紡績會社ニ於テ採用セラレツツアリ

六、消防署及ヒ消防隊

消防隊ハ獨リ都市ノミナラス工場ニ於テモ之ヲ要スルコト勿論ナリ消防ノ機具如何ニ精巧ナリトスルモ之ヲ運用スル消防隊ニシテ練習ヲ積マサレハ實際ノ火災ニ當リ其效果少シ消防隊ノ訓練ハ軍隊式ナルヲ最良トシ獨逸カ始メテ此訓練法ヲ用ヒタル以來世界ノ到處ニ之ヲ組織スルニ至レリ我東京市ニ於テモ消防本署ヲ始メ市內各要所ニ分署若クハ出張所ヲ有シ其數二十五アリト云ヘリ而シテ之ニ瓦斯倫ポンプ及ヒ「ホースカー」ヲ設備シ尙本署及ヒ各要所ニハ數臺ノ梯子カーヲモ有セリ消防士ハ常備セラレ火災報知ヲ受信スレハ數秒若クハ數十秒間ニ出動スルノ準備ヲ整ヘアリ(本項ニ就テハ法學博士松井茂氏著獨逸消防ノ近況ト題スル書冊アリ參考スヘシ)

第五　救護設備

曩ニ概述シタル倫敦火災救護隊ノ組織ヲ以テ其何タルヤヲ推知スルヲ得ヘシ我國ニ於テハ此點ニ就テ毫モ見ルヘキ設備ナシ是レ我國在來ノ普通家屋ノ構造就中平家ニ於テハ人命財產ノ救護搬出比較的容易ナリト思惟セラレタル爲メナルヘシト雖トモ現在都市ニ於テハ數層ノ高樓軒ヲ並ヘ燒死者ヲ出スコトスラ稀ナリトセス避難口避難階段避難梯子繩等ノ裝置準備ト救護隊ノ設置ハ充分其必要アリト謂ハサルヘカラス(本項ニ關シテハ瀧谷善一氏

著保險研充中財產救護隊ニ就テト題スル論說アリ參考スヘシ)

第四章　火災危險ノ分配

前章ニ述ヘタル危險測定ノ技術ニ依リテ各箇ノ被保險物カ火災危險ニ臨メル程度ヲ精査シ之ニ相當セル保險料ヲ定メテ以テ引受ヲ爲ストキハ事業ノ安全ヲ得ヘキヤト言フニ決シテ然ラス何トナレハ保險事業ニハ自然的危險竝ニ人意的危險カ各箇ノ保險ノ目的ヲ圍繞スル外ニ事業ノ全體ニ對シテ數學的危險ナルモノ隨伴シ(第二編第四章第八八頁參照)之カ火災保險ニ就テ特ニ重要ナル關係ヲ有スレハナリ而シテ此種ノ危險ニ對スル數學的說明ハ姑ク之ヲ措キ最通俗ニ之ヲ說明スルトキハ縱令箇箇ノ危險ハ正當ニ計量セラレタリトスルモ總體ニ就テ保險者ノ冒ス所ノ危險カ或事情ノ下ニ豫想ノ危險ト懸隔アルコトヲ謂フナリ或事情トハ例ヘハ事業開始ノ初期ニ於テ被保險物ノ件數未タ充分多數ナラサル場合每件ノ保險金額カ非常ニ大小ノ懸隔アル場合危險ノ極メテ高度ナル物件ヲ引受ケタル場合被保險物ノ密集シタル場合等ニ此種ノ危險ノ甚大ナルヲ見ルヲ言フナリ故ニ斯業ニ於ケル損害ノ發生ヲ平均緩和ナラシムルニハ成ルヘク危險程度ノ近接シ成ルヘク保險金額ノ差違少キ被保險物ヲ成ルヘク多數成ルヘク諸方ニ散在シテ有スルコトニ存ス而モ保險業者ハ曷ソ此ノ如キ隨意ナル選擇ヲ行フヲ得ヘケンヤ時トシテハ總保險金額ノ未タ多カラサルニ巨額ナル申込ヲ承諾セサルヘカラサル場合アルヘク或ハ高危險ノ物件ヲモ引受ケサルヘカラサル場合アルヘク或ハ自然被保險物ノ密集ヲ防ク能ハサル場合アルヘシ而シテ之ヲ其止ムヲ得サルニ任サンカ或ハ一時ニ大損害ヲ被リ或ハ危險物件ノ頻頻タル燒失ニ接シテ他ノ小額ニシテ危險少キ保險契約ヨリ收納スル所ノ保險料ハ支拂金額ヲ充スニ及ハス統計ノ根基ヲ覆シ危險測定ノ效力ヲ奪フノ結果ヲ生スルモノトス

故ニ當業者ハ先ツ其資本金額ト總保險金額ヲ顧ミテ過大ナル金額ト甚シク高危險ノ被保險物ヲ契約スルヲ避ケ特ニ被保險物ノ同一區域ニ集中シ同一風位ニ竝列スルカ如キヲ戒メテ以テ一時ニ巨額ナル支拂ノ發生スルヲ防キ以テ危險ノ良好ナル分配ヲ圖ラサルヘカラスト雖トモ此ノ如キ單獨ノ手段ハ業務ノ

擴張ヲ妨クルコト少カラス是ニ於テカ他ノ同業者ト聯合シテ互ニ危險ノ分配ヲ實行セサルヲ得ス共保同險及ヒ再保險ハ卽チ其手段ナリ

共同保險トハ一箇ノ被保險物ニ關スル利益ヲ數多ノ保險者カ保險スル場合ニシテ例ヘハ甲ノ保險者カ一棟ノ建物ニ付テ十萬圓ノ申込ヲ受ケ單獨ニ之ヲ引受クルヲ不安ナリト思惟スルトキハ被保險者ノ同意ヲ得テ乙丙ノ保險者ト謀リ甲ハ四萬圓乙丙ハ各三萬圓ヲ引受クルカ如キヲ指スナリ俗ニ之ヲ分擔保險ト稱ス而シテ再保險ハ更ニ其利用ノ範圍廣クシテ甲ノ保險者カ先ツ自ラ十萬圓ノ引受ヲ爲シ自己ノ責任ノ一部ヲ更ニ乙丙ニ保險セシムルコトアリ又ハ其附近ニ既ニ多數ノ契約アリテ新ナル被保險物ヲ容ルルノ餘地ナキトキハ其全部ヲモ他ニ轉嫁セシムルコトアリ或ハ類燒危險又ハ自火危險ノミヲ分チテ之ヲ再保險ニ付スルコトアリ或ハ保險期間ノ一部ヲ割キテ他ニ負擔セシムルヲ妨ケス數多ノ會社カ斯クシテ互ニ一ノ危險ヲ分割共擔スルトキハ各自危險ノ良好ナル分配ヲ得テ業務ノ安全ヲ期圖スルヲ得ルト同時ニ社會ニ對シテ充分保險ノ需要ヲ滿足セシムルニ足ルヘキナリ再保險ニ關シテハ海上保險ノ部ニ於テ稍詳細ノ說述ヲ試ミタリ火災保險ノ再保險モ殆ント之ト異ナル所ナキヲ以テ玆ニ之ヲ贅セス(第三四一頁以下參照)

第五章　火災保險契約ノ要項

火災保險ノ契約上ノ關係ハ我國ニ於テハ勿論商法第三編第十章第一節ニ規定セラレタル損害保險ノ總則ト火災保險ニ關スル特別規定ニ支配セラルヘキモノナレトモ實際ハ是等ノ規定中强行的ノ性質ヲ有セサルモノニ對シテハ當事者間ニ於テ却テ反對ノ契約ヲ締結スルコト無キニ非ス況ンヤ法律條規ノ不備ナル場合多キニ於テヲヤ是ニ於テカ予ハ我國火災保險業者カ再保險授受ノ便宜上一ノ除外無シニ共通ニ使用スル所ノ普通保險約款ニ就テ其要項ヲ說明セサルヲ得ス

第一　保險者ノ負擔セサル火災危險ノ種類

我商法第四百十九條ニ依レハ「火災ニ因リテ生シタル損害ハ其原因如何ヲ問ハス保險者之ヲ塡補スル責ニ任ス」トアルニ對シ保險約款ハ除外ヲ設ケ卽チ

商法第三百九十五六條ニ規定セラレタル戰爭變亂被保險者ノ惡業大過失又ハ被保險物當然ノ性質ニ因スル火災ノミナラス火災ニ際スル盜難紛失又ハ地震噴火汽罐ノ破裂火藥ノ爆發若クハ違法ノ行爲ヨリ自招シタル火災ノ損害ニ對シテハ保險者其責ニ任セサル旨ヲ定メタリ然レトモ保險業者カ充分ノ覺悟ヲ以テ普通以上ノ危險ヲ負擔セント欲スル場合ニハ公安ニ關セサル限リ特約ヲ以テ之カ引受ヲ爲スニ隨意ナリ

第二　保險ノ目的

火災保險ハ一切ノ動產不動產ヲ其目的トスト雖トモ特定セル場所ニ於ケル建物又ハ或建物內ニ於ケル家具什器其他ノ動產一式ト云フカ如キ契約ヲ締結スル場合ニハ明約アルニ非サレハ建物ニ就テハ門圍障牆壁物置納屋其他ノ附屬建物ヲ除外シ動產ニ就テハ貨幣印紙貴金屬寶玉證書有價證券書畫稿本彫刻物其他普通價格ヲ有セサル系圖珍品ノ類ヲ除外セリ

第三　保險契約無效ノ場合

(一)　保險申込ノ當時同一ノ目的ニ付キ他ノ保險者トノ間ニ締結シタル契約アルコトヲ告知セサリシトキ(共同保險又ハ重複保險ノ不告)

(二)　他人ノ爲メニスル契約タル旨ヲ告知セサリシトキ(商法第四〇二條)

(三)　保險契約者又ハ被保險者カ知レルト否トヲ問ハス保險契約ノ當時保險ノ目的カ既ニ火災ニ罹リ居タルトキ又ハ火災ニ罹ルヘキ原因既ニ發生シ居タルトキ(商法第三九七條參照)

(四)　保險金額カ保險價額ニ超過シタルトキハ超過部分ヲ無效トス(商法第三八六條)

第四　保險契約失效ノ場合

(一)　保險ノ目的ニ付キ更ニ他ノ保險者ト契約ヲ締結セント欲スルトキ之ヲ保險者ニ通知シテ其承認ヲ得サリシトキ

(二)　保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘキ危險ノ著シキ變更增加、保險ノ目的ノ移轉建物ノ改築又ハ修繕ヲ保險者ニ通知セサリシトキ(商法第四一〇條及ヒ第四一一條參照)

(三)　保險ノ目的ヲ讓渡シタルモ之ヲ保險者ニ通知セサリシトキ(商法第四〇

四條參照)

第五　保險契約ノ解除

(一)　保險契約者カ保險申込ノ當時重要ナル事實ヲ告ケス又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事ヲ告ケタルトキ(商法第三九九條ノ二)

(二)　保險者ハ保險契約ノ存續中何時ニテモ保險ノ目的ヲ檢査スルコトヲ得ルニモ拘ハラス相手方カ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒絶シタルトキ

(三)　保險契約者又ハ被保險者カ其責ニ任セサル危險ノ變更增加ヲ知リテ保險者ニ通知セス又ハ保險者カ之ヲ承認セサルトキ

以上ノ場合ニ保險者ハ契約ノ解除ヲ請求スルコトヲ得

(四)　保險契約者ハ保險期間中何時ニテモ保險契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得解除ノ場合ニハ日割ヲ以テ未經過保險料ヲ返戻スルヲ原則トスルモ保險契約者ノ任意又ハ惡意ニ出ツル解除ニ對シテハ之ヲ爲ササルモノトス

第六　損害塡補

(一)　保險ノ目的火災ニ罹リタルトキハ保險契約者又ハ被保險者ヨリ遲滯ナク書面ヲ以テ之ヲ保險者ヘ通知シ十五日以内ニ火災ノ狀況調書及ヒ損害見積書ヲ作リテ差出スヘキモノトス

(二)　損害ハ通常通貨ヲ以テ塡補スヘキモ保險者ノ任意ニ現品ノ交付又ハ修繕再築ノ方法ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

(三)　共同保險又ハ重複保險ノ場合ニ於テハ數箇ノ契約カ同時ニ結ハレタルト順次ニ結ハレタルトヲ問ハス總テ各保險者ノ金額ノ比例ヲ以テ損害ヲ分擔スルモノトス是レ我商法ノ順序塡補主義ヲ不便ナリトシテ採用セサル結果ナリ(商法第三八七條及ヒ第三八九條參照)

(四)　損害防止ノ費用ハ特約アルニ非サレハ保險者之ヲ塡補セス(商法第四百十四條ノ主義ト異ナレリ)

第七　損害發生後ノ保險者ノ權利

(一)　罹災物ヲ保管又ハ移動スルコト

(二)　保險金ノ支拂ヲ爲シタルトキハ其限度ニ應シテ被保險者ノ權利ヲ代位スルコト(商法第四一五條及第四一六條參照)燒殘物ヲ賣却收得スルノ習慣

モ之ニ據ルナラン

第八　爭議ノ仲裁

危險發生ノ狀況ニ依リ損害ノ程度ヲ異ニスル保險ノ種類ニ在リテハ獨リ火災保險ニ於ケルノミナラス海上保險ニ於テモ傷害保險ニ於テモ塡補額ニ就テ當事者間ニ異議ノ發生スルコトヲ免レス此場合ニハ一一訴訟ヲ以テ決スルカ如キ煩ニシテ不經濟ナル方法ヲ避ケ雙方ヨリ一名ツツ評價人ヲ選任シ之ヲ評價セシメ評價人ノ意見一致セサルトキハ評價人合意ノ上一名ノ仲裁人ヲ選ヒテ之ヲ判斷セシメ此判斷ニ對シテ雙方異議ヲ申立テサルコトトセリ而シテ之ニ要スル費用ハ雙方半額ツツ負擔スルモノトス火災保險ニ於テ損害額査定ノ事務ニ任スル專門家ヲ外國ニテハ Assessor ト呼フ海上保險ノ Adjuster ニ該當スルモノナリ

第八　契約ノ繼續

火災保險契約ノ期間ハ日歩保險ト稱シテ日日契約ヲ更新スルモノ竝ニ數月數日ノ短期ナルモノノ無キニ非サルモ通常一箇年ヲ以テ一契約ノ期間トシ

其滿了ニ際シテ保險契約者カ保險者ノ要求スル保險料ヲ拂込ムトキハ申込竝ニ契約ニ關スル手續ヲ省略シ保險料ノ領收證ヲ以テ次ノ期間ニ對スル契約ノ繼續ヲ證明スルコトトセリ通常保險會社ヨリ期日ノ數日前ニ之ヲ契約者ニ豫告シテ繼續ヲ勸ムルヲ習慣トスト雖トモ固ヨリ保險者ノ義務ニアラス以前ハ生命保險ニ於ケルカ如ク保險料ノ拂込ニ對スル猶豫期間通常一週間ヲ與ヘシカ今ヤ之ヲ廢セルヲ以テ世間往往保險期間漸ク滿了シテ未タ次回ノ保險料ヲ拂込マサル以前ニ火災ニ罹リ保險金ヲ得ル能ハサルノ不幸ニ遭遇スル者アリ被保險者タル者大ニ注意セサルヘカラス

以上ノ諸要項ハ我邦一般火災保險業者ノ實施スル所ナレトモ外國ノ保險會社ニ在リテハ尙幾多ノ異リタル條項ヲ其約款中ニ包有スルコトアリ又ハ特約條項トシテ之ヲ挿入スルコトアリ例ヘハ左ノ數項ノ如シ

第一　倒壞條項

火災ニ際シテ會建物カ倒壞スルコトアリ例ヘハ地震ノ發生ニ伴ヒ火災ノ發生シタル場合ノ如シ倒壞シタル後ニ燒失シタル場合ハ責ニ任セスト言フカ

如キ特約ナリ我邦ノ保險約款ニハ一概ニ地震ニ因スル火災ノ損害ヲ除外セルモ外國ニテハ特別保險料ヲ徵シテ地震ノ火災ヲモ保險スルコトアリ

第二　爆發條項

我國ノ約款ニハ特約無クンハ汽罐ノ破裂竝ニ火藥ノ爆發ニ因スル火災ヲ除外スレトモ外國約款ハ獨リ火藥ノ爆發ニ限ラス何物カノ爆發ヲモ除外セリ

第三　海上保險條項

海上保險ニ付セラレタル運送貨物カ避難港又ハ積替港ニ一時陸揚セラレ倉庫ニ保管セラルル間ニ火災ニ罹リ該貨物カ二重ノ損害塡補請求權ヲ有スル如キ場合ヲ想像シ火災保險者ノ責任無キ旨ヲ明示セルモノナリ

第四　失權條項

外國約款ハ一般ニ嚴酷ニシテ例ヘハ保險金請求ニ詐欺ノ事實アリタルトキ損害カ被保險者ノ故意又ハ默認ニ因リ生シタルトキ、被保險者ノ請求カ拒絕セラレ若クハ仲裁ノ行ハレタル後六箇月以內ニ起訴セサルトキ等ノ場合ニ於テハ被保險者ハ一切權利ヲ失フ旨ヲ明定シタル條項ナリ

第五　空家條項 (Vacancy clause)

住宅工場其他ノ建物カ空家トナルトキハ火災ニ對スル監視防禦等薄弱トナル爲メ特ニ割增保險料ヲ請求シテ之ヲ承認スルコト外國保險會社ノ習慣ニシテ約款ニハ此事項ヲ規定セリ

第六　共同保險條項 (Coinsurance clause)

曩ニ人意的危險ノ條下ニ述ヘタル所ニシテ超過保險ノ危險ヲ避クルルカ爲メ保險價額ノ一部ヲ必ラス被保險者自身ノ責任トシ兩者共同シテ保險スルノ意ナリ故ニ又之ヲ reduced average clause ト稱ス「ニューヨーク」模範保險約款「千八百八十六年「ニューヨーク」州ニ於ケル火災保險業者ノ委員會カ州ノ議員ト協同シテ起草シタルモノ)ニ於ケル此條項ヲ例示スレハ左ノ如シ

當會社ハ罹災ニ對シ保險ノ目的ノ時價ノ百分ノ……ヲ標準トシテ之ト保險金ノ割合ニ應シテ損害ノ塡補ヲ爲スモノトス

保險ノ目的カ數目ニ互ルトキハ其ノ各目ニ付キ前項ノ規定ヲ適用ス

百分ノ……ハ通常百分ノ八十トスト雖トモ時ニ百分ノ七十五ナルコトアリ

之ヲ Three-fourths value clause ト稱ス又之ニ類似シテ Three-fourths loss clause ト云フアリ保險價額ノ豫メ定メラレサル場合等ニ於テ實際發生シタル損害額ノ四分ノ三ヲ限度トシテ保險金額マテノ塡補ヲ爲スノ契約ナリ(但「ルイジアナ」州ニテハ千九百八年法律ヲ以テ此種ノ條項ヲ禁止セリ

第七　定價證券條項(Valued Policy clause)

曩ニ人意的危險ノ節ニ於テ紹介シタル定價證券法ハ千八百七十四年「ウイスカンシン」州ニ於テ始メテ制定セラレ同七十九年「オハイオ」「ミゾリー」及ヒ「テクサス」ノ三州ニ傳ハリ現今ニテハ合衆國中二十一州ニ實施セラルル所ノモノナリ火災保險カ損害ノ現狀回復ヲ目的トシ被保險利益ノ範疇ヲ脫シ得サル本質ヨリシテ此ノ如キ法律ノ背理且有害ナルハ何人モ認ムル所ニシテ米國ニ於テモ多數ノ保險專門家ハ之ヲ非難セリ然レトモ共同保險約款ヲ禁止シ又ハ保險料協定ヲ禁止スル法律ノ州ニ依リテ存スルカ如キ事實ハ米國火災保險業者ノ橫暴貪利ナル暗面ヲ表示スルモノト謂ハサルヘカラス定價保險條項モ觀察ト利用ノ如何ニ依リ善良ナル結果ヲ齎スコトナシト言フヘカラサルヘシ

第八　共同塡補條項(Contribution clause)

此條項ハ我邦ノ火災保險會社ニ於テモ普ク用フル所ノモノニシテ卽チ一ノ保險契約ノ目的(被保險利益)カ數多ノ保險者ニ依リテ保險セラレタル場合ニハ各保險者ハ保險金額ノ比例ヲ以テ損害ヲ塡補スルコトヲ明定スルモノナリ之ニ反スルモノニ順次塡補條項アリ又特定物件條項ト稱シ例ヘハ一ノ保險者カ家具什器ヲ總括シテ或金額ヲ保險シタルニ他ノ保險者カ其中ニ於テ特ニ「ピアノ」ヲ或金額ニ對シテ保險シタル如キ場合ニ於テ此條項ニ從ヘハ前者ハ「ピアノ」ニ付テハ其損害價額カ後者ノ保險金ヲ超過セル部分ノミニ對シテ責任ヲ負フノ結果トナルカ如シ(本條項ニ關シテハ第一九四頁第六第七參照)

第九　自己保險條項(Average clause)

被保險利益ノ一部カ保險ニ付セラレタル場合ニ於テ損害發生スルトキハ保險者ハ被保險利益ノ價額ニ對スル保險金ノ割合ヲ以テ損害ヲ塡補スル旨ヲ

明記スルモノニシテ商法ニモ明定セラレ又保險會社ノ保險約款ニ於テモ普ク用ヒラルル所ナリ卽保險セラレサル部分ハ被保險者自己カ保險者ノ位置ニ在ルモノトシテ前項ノ共同塡補條項ヲ適用スルモノトス然ルニ此原則ハ一部損害ノ場合ニ素人タル被保險者ニ依リテ誤解セラルルコト少カラス例ヘハ價額千圓ノ家屋ニ五百圓ノ火災保險ヲ付シタルニ火災發生シ半燒トナリテ評價額五百圓ノ損害ヲ生シタリトセンニ此原則ニ依レハ保險者ハ二百五十圓ヲ塡補スルヲ以テ足レリトスルモ素人ハ五百圓マテノ塡補ヲ得ント欲スヘシ是ニ於テカ此條項ノ必要存ス將又一般人士ノ了解ト好感ヲ得ンカ爲メニ保險者カ先ツ自已ノ保險金ノ限度マテ塡補スルノ契約ヲ結フハ隨意ニシテ此場合ヲ第一危險ノ契約ト云ヒ英國等ニ於テ多ク行ハルル所ナリ

第六章　火災保險契約ノ種類

火災保險ノ種類ヲ其契約ノ形態又ハ方法ニ由リテ考察スルトキハ本書ノ總論中(第一九二頁)ニ揭ケタル諸種類ノ外海上保險契約ノ形態ニ由ル種類中(第三二〇頁)ニモ之ト共通ノモノアルヲ見ルヘシ例ヘハ General policy or coverage, Specific or Specified policy, Blanket policy, open or Running Policy, Floating policy 等ノ如シ而シテ是等ニ就テハ既ニ多少ノ說明ヲ施シタレハ玆ニ贅スルヲ止メ次ニ契約ノ內容ニ付テ或ハ被保險利益ヲ異ニシ或ハ危險ヲ區區ニスル等ノ差違ヲ以テ存在スル所ノ數種ノ保險契約ヲ擧示セントス而シテ是等ハ多ク斯業ノ發達セル諸外國ニ存在スル所ノモノニシテ漸次我國ニモ行ハルルニ至ルヘキナリ

第一　Mortgage policy (抵當證券)

火災保險ハ通常物件ノ所有者カ其利益ヲ保護スル爲メニ保險ニ付スルモノナルカ之ヲ抵當ニ取リテ貸金ヲ爲ス所ノ抵當權者カ火災ノ爲メニ抵當物カ滅失シ抵當債權變シテ普通債權トナルノ危險ヲ慮リ其利益ヲ保險スルヲ抵當證券ト稱ス我國ニ於テモ往往行ハルル所ナリ

第二　Liability policy (責任證券)

他人ノ建物機械等ヲ借用セル者カ之カ火災ニ罹リタル場合ニ所有者ニ其損害ヲ賠償スヘキ責任ヲ有スル其危險ヲ保險スルモノニシテ我國ニ於テモ斯

ル場合ヲ想像シ商法第四百二十一條ニ左ノ規定ヲ設ケタリ

賃借人其他他人ノ物ヲ保管スル者カ其支拂フコトアルヘキ損害賠償ノ爲メ其物ヲ保險ニ付シタルトキハ所有者ハ保險者ニ對シテ直接ニ其損害ノ塡補ヲ請求スルコトヲ得

第三　Use and Occupancy policy（使用占有證劵）

商工業等ニ使用セラルル建物カ火災ニ罹リ燒失スルトキハ獨リ該建物ノ價額上ノ損失ノミナラス商工業ヲ中止シ而モ其間必要ナル經費ハ支辨セサルヘカラス此ノ如キ場合ノ損失ヲ火災保險者ニ塡補セシムルモノ諸外國ニ於テ漸次盛ナラントセリ勿論之ヲ引受クルニハ商工業ノ性質其信用持續性等ヲ精査シテ遺漏ナキヲ期シ又其保險金額ノ限度モ充分確實ナル根據ニ依リテ定メサルヘカラス通常一箇年ノ生產價額又ハ取引價額ノ一割乃至一割五分ヲ保險金ノ限度トシ一日若干ト規定シタル金額ヲ休業日數ニ應シテ拂渡スノ方法ヲ採レリ

第四　Rent policy（借料證劵）

家主カ火災ノ爲メニ損失スル家賃ノ保險ニシテ第二編中（第二〇七頁借料保險ノ說明中ニモ之ヲ述ヘタリ

第五　Leasehold policy（借地證劵）

他人ノ地所ヲ借受ケ建物ヲ築造貸附ヲ爲ス者カ火災ノ爲メニ地主ヘ無益ニ支拂ハサルヘカラサル地代ノ損失ヲ保險シ或ハ他ノ建物ヲ借受ケ之ヲ復貸シテ收入ヲ獲ル者カ火災ノ爲メニ損スヘキ家主ヘノ家賃ヲ保險スル如キ凡テ賃借人ノ利益ヲ火災ニ對シテ保險スルモノナリ

第六　Profit policy（利潤證劵）

商工業者カ火災ノ爲メ業務休止中喪失スヘキ利潤（營業利益）ヲ保險スルモノニシテ第三ノ契約ニ類似スレトモ前者ハ業務損害ノ保險ニシテ利潤證劵ハ必ラス利潤ヲ擧ケ居ル商工業ニ對シテ確實ナル希望利益ノ見積額ヲ標準トシテ保險スルノ差違アリ

第七　Sprinkler Leakage policy（スプリンクラー漏損證劵）

直接ニ火災ノ損害ヲ保險スルニハ非サレトモ火災ニ關係ヲ有スル點ヨリシ

テ斯業者ノ引受クル所ノ契約ナリ卽チ工場ニ於ケル消防裝置トシテ缺クヘカラサル自動「スプリンクラー」カ偶然開口シ又ハ破裂シテ建物又ハ貯藏品ニ損害ヲ被ラシムル場合ノ保險ニシテ火災ニ際スル「スプリンクラー」當然ノ噴水ニ因スル濡損ハ普通ノ火災保險證券ノ負擔スル所ナレトモ然ラサル場合ノ損害ヲ豫想シテ此種ノ證券ヲ利用スルナリ

第八　森林火災保險(Forest Fire Insurance)

森林モ亦不動產ニ準セラルル所ノ財產ニシテ之カ火災保險ノ目的タリ得ルハ何等怪ムヘキ所無ク現ニ普通火災保險會社ニ於テ庭園ノ樹木ヲ保險スルコトアリ又時トシテ森林ニ普通火災保險ノ方法ヲ適用シテ之ヲ保險スルコト無キニ非サルモ元來物件ノ性質位置等カ全ク自餘ノ物件ト趣ヲ異ニシ保險料率危險ノ測定等ニ就テ全然別種ノ考察ヲ要スル點ヨリシテ曩ニ之ヲ別ニ說明スヘク約シタリシカ玆ニ火災保險契約ノ特別ナル一種類トシテ之ニ關スル概要ヲ記述セント欲ス

「ウォルフォード」ノ保險全書ニ曰ク千八百六十八年ノ夏ハ暑熱格段ニシテ其爲メ歐洲ニ於ケル松林其他ノ森林ノ火災甚多カリシヨリ佛國ニ於テ此種ノ損害ヲ保險スヘク特種會社ヲ企畫スルニ至レリ然リト雖トモ森林保險ノ思想ハ必シモ斬新ニアラスシテ當時既ニ諸會社ノ引受クル所タリ然レトモ之ヲ特別ノ部門トシテ充分力ヲ盡ササリシカ故ニ危險ノ良好ナル平均ヲ得ル能ハス又新ニ之ヲ計畫セル會社モ森林所有者ヨリ保險料高キニ過クト思惟セラレタリ前記佛國會社「ラ、フォレスチール」(La Foresliere)ノ目論見書中ニ在ル資料ヲ見ルニ佛國ニ於ケル樹林ノ地積ハ百萬「ヘクター」以上ニシテ一「ヘクター」ノ價格ヲ五百法トスレハ總價額五億法ニ上ルヘシ而シテ其半ハ保險ニ付セラルヘク之カ保險料ハ千法ニ付キ二乃至二・五法卽チ一「ヘクター」一乃至一・二五法ニテ可ナルヘシトアリ云云ト又「マーネス」氏ノ保險辭典ニハ次ノ如キ記述アリ

森林火災保險ノ必要ハ何人モ爭フ所ナキモ其實行ハ未タ甚幼稚ナリ千八百八十一年ヨリ千八百九十四年マテニ獨逸ニ於テハ五千四百三十五回ノ森林火災アリ其損害額五百三十六萬四千八百九十二馬克卽チ毎年平均三十八萬

三千二百七馬克ニ及ヘリ而モ公立火災保險組合ハ「ライン」及ヒ「ザクセン」組合ヲ除クノ外近來マテ全ク森林ノ保險ヲ度外視セリ而シテ此保險ノ實行カ斯ク晩レタル理由ハ森林業者ニ在リテハ保險料ノ高キニ過クルカ如キ感ト森林評價ノ困難ナルトニ因シ保險業者ニ在リテハ統計ノ根據不充分ニシテ危險ノ測定亦容易ナラスト思惟シタルニ存セリ而モ此保險ノ國富保全ニ必要ナルコト漸次其認識ヲ高メ近來「ライン」及ヒ「ヴェストファーレン」ノ公立火災保險所ハ大ニ之ニ力ヲ注クコトトナリ殊ニ後者ハ其農務局ニ對シ義務的ニ森林保險ノ申込ヲ受クヘキコトヲ承認セリ今「ヴェストファーレン」保險所ノ規定ヲ見ルニ森林所有者ハ州內ニ所有セル森林ヲ全部保險ニ付スルヲ要シ其價額ノ四分ノ三ハ保險所ノ負擔トシ四分ノ一ハ自家保險トス立木ノ價額カ栽培費ヨリモ高キ場合ハ立木價額ヲ以テ損害塡補ノ標準トシ沼地又ハ屑材ノ燃燒ヨリ來レル類燒ハ之ヲ保險セス其保險料ハ樹林ノ種類ニ依リ保險金千ニ對シ左ノ如ク配列セラル

純濶葉樹林 (Reines Laubholz)	·四乃至·八
混合高樹林 (Gemischte Hochwaldbestände)	·六乃至一·五
混合低樹林 (Gemischte Niederwaldbestände)	·九乃至·三
純針葉樹林樹齡八年未滿 (Reines Nadelholz bis 8 Jahre alt)	三乃至四
同上八年以上十五年未滿	二·五乃至四
同上十五年以上四十年マテ	一·六乃至二
同上四十年ヲ超ユルモノ	·五乃至一·五

我日本ニ於テモ森林ノ火災保險ハ森林所有者並ニ保險業者ノ兩方面ヨリ從來全ク閑却セラレタルコト上記獨逸ニ於ケルト同樣ナリシモ近時木材價格ノ暴騰ハ著シク森林經營ノ財的價格ヲ認メシメ森林業者ハ之カ開發資金ヲ獲ント欲シ農工銀行勸業銀行等ニ行クモ火災保險ノ施設ナケレハ森林抵當ヲ受諾スル能ハサル爲メ森林家ハ森林火災保險ノ緊急ナルヲ唱導シ全國山林大會ニ於テ或ハ其官營ヲ請願シ或ハ專門會社ノ設立ヲ企畫スル等最近兩三年ニ於ケル其運動甚熱心ナルヲ以テ予ハ其關係アリシ東邦火災保險株式會社ニ於テ之ニ關スル調査ヲ試ミ森林火災保險ニ特種ナル事業ノ方法及ヒ

保險料表ヲ定メ大正十年中政府ノ認可ヲ受ケテ之ヲ實行スルコトトセリ今同會社ノ契約手續及ヒ保險料表ノ概要ヲ掲ケンニ左ノ如シ

一　當會社カ取扱フ森林火災保險ノ目的物ハ樹齢十ケ年以上ノ造林ニシテ天然林及ヒ樹齢十ケ年未滿ノ造林ハ當分取扱ハス

二　保險料ハ地方別林別樹齢別ニ區別シ被保險物件ノ火災危險程度ヲ參酌シ最公平且低廉ヲ旨トシ之ヲ量定セリ

三　保險契約ノ手續ハ至テ簡單ニシテ契約者ハ森林火災保險申込書所定ノ林地ノ所在、林別、樹種、林地ノ面積、見積本數、見積價額、保險金額等ヲ申込書ニ記入シ本社、支店、出張所、又ハ其地方ノ代辨店ヘ申込ヲ爲セハ可ナリ

四　罹災ノ際ハ類燒ハ勿論他人ノ放火若クハ過失出火ノ場合ヲ問ハス直チニ實地調査ヲ爲シ最モ公平ニ損害額ヲ量定シ保險金ノ支拂ヲ爲スモノトス

五　保險金一千圓ニ對スル一ケ年間ノ保險料左ノ如シ

樹齢別 / 樹種別 / 大林區署別	三十一年生以上			自二十一年生至三十年生			自十一年生至二十年生		
	イ	ロ	ハ	イ	ロ	ハ	イ	ロ	ハ
北海道地方	一〇・〇	一〇・〇	一五・〇	一四・〇	一四・〇	二一・〇	一九・〇	一九・〇	二八・五
青森地方	七・五	七・五	一一・五	一〇・五	一〇・五	一六・〇	一四・五	一四・五	二二・〇
秋田地方	六・五	六・五	一〇・〇	九・〇	九・〇	一三・五	一二・五	一二・五	一九・〇
東京地方	四・五	五・五	八・五	七・〇	八・五	一三・〇	九・〇	九・〇	一六・五
大阪地方	三・五	四・五	七・〇	四・五	五・五	八・五	五・五	七・〇	一〇・五
高知地方	三・五	四・五	七・〇	四・五	五・五	八・五	五・五	七・〇	一〇・五
熊本地方	三・五	四・五	七・〇	四・五	五・五	八・五	五・五	七・〇	一〇・五
鹿兒島地方	三・五	四・五	七・〇	四・五	五・五	八・五	五・五	七・〇	一〇・五
臺灣地方	三・五	四・五	七・〇	四・五	五・五	八・五	五・五	七・〇	一〇・五

イ　純濶葉樹林

ロ　針濶葉混淆林

ハ　純針葉樹林

上記ノ保險料ハ森林業者ノ高キニ失スルト思惟スル所ナルヘク又一會社ノ

經營ヲ以テシテハ一危險ニ多額ノ保險金ヲ契約スル能ハサルノ感アルカ故ニ要スルニ斯業ノ前途ハ尙遠遠ナリト謂ハサルヘカラス(森林火災保險ニ關スル參考材料ニハ大日本山林會報第四四七號所載揖論「山林業ト保險」同號川島瀧藏氏「森林火災保險ノ效果」保險雜誌第二五一、二五三號所載三浦義道氏「森林保險ニ關スル研究」等アリ)

第七章　火災保險ノ財政

前數章ニ於テハ主トシテ火災保險ノ沿革的事實ト其科學的技術並ニ契約上ノ知識ニ就テ記述シタルカ最後ニ予ハ其經營ニ關シテ財政的方面ニ一瞥ヲ與ヘント欲ス而シテ之ヲ要スルニ火災保險ノ財政ハ頗ル困難ニシテ一日モ經營者ヲ安堵セシメサル底ノモノタルヲ知ラサルヘカラサルナリ是レ斯業カ競爭ノ餘地廣クシテ之カ爲メニ收支ノ權衡ヲ失フコト多キニ職由スルナリ生命保險事業ハ一タヒ加入者ヲ得ルトキハ數十年又ハ其終身間之ヨリ絕エス保險料ヲ收納スルコトヲ得往往途中ノ解約者ヲ見ルコト無シト言フヘカラスト雖トモ解約ハ保險契約者ニ取リテモ通常損失ヲ招クモノナルカ故ニ之ン固ヨリ一小部分ナルニ過キス然ルニ火災保險契約ハ一箇年ヲ一期トシ保險者カ確乎不動ナル信用ヲ有スル場合ト雖トモ滿期前ニ於テ敏捷ナル契約繼續ノ勸誘ヲ爲サルニ於テハ他會社ノ爲メニ之ヲ奪取セラルルコト少カラス海上保險ノ如キモ亦短期ノ契約タルコト火災保險ニ同シト雖トモ其保險契約者ノ種類ト範圍稍制限的ニシテ從テ各保險會社ノ得意關係割合鞏固ナリ而モ火災保險事業ニ在リテハ全ク自由ノ大天地ヲ其競爭ノ戰場ト爲スカ如キ觀アリ同業者カ容易ニ敵ノ顧客ニ觸接スルヲ得ルカ故ニ互ニ敵ノ本城ヲ衝キテ戮戰スルニ當リテハ必然契約費用ノ增嵩ト同時ニ保險料率ノ低落ヲ見サルヘカラス此競爭激甚ヲ極メテ終ニ常軌ヲ失スルニ至リテハ料率ハ支離滅裂ニ歸シ再保險ハ杜絕シテ危險ノ分配毫モ行ハレス頻頻巨額ノ損害ヲ被リテ會社ノ倒產踵ヲ接スルニ至ルヘシ我國ニ於テモ歷史ハ既ニ此事實ヲ立證シテ餘アリ

然リト雖トモ斯業カ此ノ如キ墮落狀態ニ陷ラサル場合ト雖トモ火災保險會社ノ財政ハ頗ル困難ニシテ「キッチン」氏ハ其著「火災保險ノ理論及ヒ財政」ニ於テ言ヘ

リ千八百九十五年ヨリ十箇年ヲ遡リタル間ニ於ケル英國火災保險會社全體ノ平均費用率ハ收入保險料ノ三割一分六厘千九百一年ニハ增嵩シテ三割四分三毛トナリ翌年ハ更ニ增嵩シテ三增四分四厘六毛ニ達セリ此ノ如クニシテ又惡年ニ遭遇センカ利益ノ出ツル所殆ント無キニ至ルヘシ千九百一年ハ北米合衆國及ヒ加奈太ニ於テ大損害ヲ被リタル凶歳ニシテ支拂保險金額ハ收入保險料ノ六割三分六厘九毛ニ達シ之ニ上記ノ經費三割四分三毛ヲ加フルトキハ利益ハ僅ニ收入保險料ノ二分二厘八毛ヲ剩スノミ是レ頗ル惡例ナリ然ルニ翌年ハ支拂保險金五割二分二厘ニシテ之ト經費三割四分四厘六毛ヲ合スルトキハ利益トシテ一割三分三厘四毛ヲ剩スノ計算ニシテ良好ナル結果ト言ハサルヘカラスト火災保險事業ハ吉年ト凶歳ノ差此ノ如ク顯著ニシテ是レ事業ノ性質上止ムヲ得サル現象ナリ故ニ勝テ驕ルヘカラス敗レテ歎クヘカラサルノ俚諺ハ斯業者ニ取リテ最服膺スヘキ格言ニシテ吉年ニ喜フハ無智ナリ凶歳ニ悲ムハ淺慮ナリ吉年ニ剩シ得タル大ナル利益ハ眞ノ利益ニ非ス凶歳ニ損シタル所ノモノハ眞ノ損失ニ非ス利益ト損失ヲ數年又ハ十數年ニ平均スルヲ以テ保險事業ノ本意トス就中火災保險事業ハ生命保險等ニ比シテ此種ノ變化ニ富ミタル業務タリ然ルニ世間ハ多ク之ニ着眼セス大火ノ耳目ヲ驚カス如キモノ無ケレハ各人皆保險料ノ低下ヲ要求シテ强硬ヲ極メ數多ノ保險會社ヲシテ保險料ノ入札ヲ行ハシムルカ如キ者アリ斯業者モ亦競ウテ料率ヲ低下シテ之ニ應シ又剩ス所ノ利益ハ盡ク之ヲ株主ニ配當シ而モ一朝大凶歳ニ逢遇センカ周章狼狽損失回復ノ爲メニ保險料ヲ一時ニ數倍ノ高キニ引揚ケントスルアリ如何ニ利益ヲ本位トスル營業者トハ言ヒナカラ此ノ如キ無定則ノ狀態ヲ許スヘカラサルナリ

是ニ於テカ料率協定ノ必要ト正義生スルコト曩ニモ說述シタルカ如ク眞ニ靠固ナル統計ノ基礎ニ據リ相當ナル費用ノ見積ヲ附加シテ算出シタル公平ナル料率ハ保險ノ需要者ト供給者ノ利害ヲ調和スルト同時ニ保險業務ノ弊害ヲ防止シテ其安全ナル持續ヲ期セシムルモノニシテ米國「テキサス」州ノ如キハ法定保險料率ヲ制定セリト言ヘリ然レトモ創立ノ年代古クシテ資本金積立金等ノ財產豐富ナル信用多キ會社ト新參ニシテ基礎未タ充分靠固ナラサル小會社ト

カ同一ノ保險料率ヲ以テ共存センコトハ理ニ於テ困難ナルヲ以テ協定料率ヲ二段ニ別チテ實行スルコト無キニ非ス所謂二率協定是ニシテ例ヘハ銀行業者カ預金利率ヲ二樣ト爲スカ如シ而シテ是レ新會社ノ費用ノ節減ニ依リテ附加保險料ノ部分ニ於テ料率ノ低減ヲ試ミルニアルナリ

總テ保險事業ノ附加保險料ハ安價ナルタケ多數保險契約者ノ利益ヲ增進スルモノトシテ奬勵セラルヘキモノニシテ火災保險ニ於テモ亦勿論然リ「エールリーヂング」第二卷第十七章「費用問題」ノ劈頭ニ曰ク吾人カ火災保險會社ヘ支拂フ所ノ保險料一弗毎ニ三十八仙半ハ經費ノ爲メニスルモノナリ單ニ多數者ヨリ金員ヲ集收シテ再ヒ之ヲ支出スルト云フ此業務トシテハ多キニ過クルト言ハサルヘカラス而シテ此三十八仙半ハ左ノ各目ニ分配セラルルヲ以テ普通ノ狀態トス

給料、借料及ヒ一般經常費	七・五
手數料(紹介料)	二一・五
租稅	二・五
特別代理者ノ給料及費用	三・五
檢査役及地方出張所費	一・五
印刷費郵稅等	二・〇
計	三八・五

保險料ノ三割八分五厘ヲ費用ニ消散スルハ既ニ嘉スヘカラストセラルル所タリ況ンヤ我國ニ於テ之カ四五割ニモ至ルモノアルニ於テヲヤ而シテ其內最多キヲ占ムルハ代理店又ハ「ブローカー」ニ支拂フ所ノ紹介料又ハ手數料ニシテ前例ニ於テ二割一分五厘ヲ占ム我國ニ於テハ之カ二割五分ヨリ三割ニ上ルモノ無キニ非ス中ニハ實際保險契約者ヘ若干ノ割戾ヲ行ヒ以テ協定ヲ裏切ルノ具トスル者ナキニ非サルモ是亦他ノ方面ニ於テ嘉スヘカラサル行爲タリ

營業的火災保險ニ對抗シテ工場相互(Factory Mutual's)都市保險(Municipal Insurance)等ノ發生スルハ主トシテ火災保險ノ經費ヲ節減スルノ目的ニ出ツルヲ以テ正當トス故ニ火災保險ノ營業組織カ濫費ニ失スル場合ニハ相互火災保險若クハ官公立火災保險ヲ以テ其弊ヲ救正セサルヘカラス

斯業ノ經理方面ニ關シテハ尙幾多ノ問題ヲ遺スト雖トモ本書ノ豫定ハ玆ニ稿ヲ了ルノ止ムヲ得サルニ至ラシメタリ故ニ一言ヲ加ヘテ結論ト爲サント欲スルハ斯業ノ經營ニ取リテ最重要ナル危險準備金若クハ大火準備金(Conflagration reserves)ノ必要ニ在リ十年又ハ十數年ニ一回ノ大火災ハ多クノ場合ニ於テ斯業ノ實際現象ヨリ除外セラルルノ虞アリ卽チ保險料ハ動モスレハ平年罹災ノ標準ニ定着セントスルノ傾向アリ是レ斯業ノ困難ナル所以ニシテ此傾向ニ對スル合理的抵抗ヲ持續シツツ大火準備金ノ蓄積ヲ努ムルヲ以テ財政ノ要訣トセサルヘカラサルナリ

火災準備金(Fire reserves)ハ拂込及ヒ未拂込ノ資本金ト相合シテ絕對的ニ此事業ノ龍骨タリ社會ノ公衆カ保險料ヲ拂込ムニ當リテ信賴スル所ハ之ニ在リ會社カ保險金ノ請求ニ對シテ其能力ヲ示シ得ルハ之カ爲ナリ適當ナル準備金額ナクンハ火災保險事業ハ投機ト擇フ所ナキナリ(「キッチン」氏著火災保險ノ原理及ヒ財政一九〇四年出版第二一九頁)

大正十一年四月十五日初版印刷
大正十一年四月二十日初版發行
大正十一年五月十五日再版印刷
大正十一年五月十九日再版發行

改訂保險學綱要第二冊
定價金貳圓

著作者　粟津清亮
發行者　東京市神田區仲猿樂町一番地　波多野重太郎
印刷者　東京市本郷區眞砂町三十六番地　久松鐵次郎

發兌元　東京神田區仲猿樂町九段(電話二二五四番)
振替東京六五五六番(電話二二六七六番)　巖松堂書店

關西發賣所　大阪市北區曾根崎上三丁目(電話北一六五三番)(振替大阪三一九七二番)　巖松堂大阪店
滿鮮發賣所　朝鮮京城本町二丁目(電話一一六六番)(振替京城二四五四番)　巖松堂京城店

著作權所有

東京●日東印刷株式會社●本郷

91
196

終